

京交山岳部報

No 378

'84 4月号

〔第1481回例会〕 吉野桜と万葉のロマンを求めて

音羽山から龍門岳 (T)

日 時 4月12日(木) 烏丸車庫 5時出発(マイカーにて)
コ ー ス 烏丸車庫一八条口一奈良一桜井一下居…音羽山△852m…經ヶ塚山△
889m…熊ヶ岳912m…大峠…三津峠…竜門岳1等△904m…山口
…下居一奈良一京都 地図 吉野山(1/5万図)
担 当 者 烏丸 大倉寛治郎(TEL 2343、491-0430) 申込〆切 10日(火)

〔第1482回例会〕

大江山集中登山 (R)

日 時 4月15日(日) 早朝出発予定
コ ー ス A. 不甲峠コース (前夜発) B. 鬼岳稲荷社コース
C. 天座コース D. 山河コース
担 当 者 高速 岡田茂久(TEL 255-4305 事業用 3282)
備 考 詳細は 4月10日の集会にて打合せを行います。

〔第1483回例会〕

三峰山 1等△1235m (R)

日 時 4月25日(水) 九条車庫 6時半出発
コ ー ス 九条車庫一24号一磯原一165号一名張一神未…山頂…往路下山
担 当 者 OB 河村 清(TEL 581-5828 事業用 2660)
備 考 マイカーで行きますので連絡して下さい。

〔第1484回例会〕 奉スキー

立 山 (T)

日 時 4月28日(土)~5月1日(火)
コ ー ス 京都一富山一十寿ヶ原一弥陀ヶ原…みくりが池荘(泊)
担 当 者 本局 広瀬光太郎(TEL 3418)
備 考 マイカーで行く予定です。

〔第1485回例会〕

利尻トレーニング例会

日 時 4月29日(日)

コ ー ス 未定

担 当 者 梅津 吉田 武(TEL 2539)

備 考 4月13日の打合せにて発表します。



35周年が巡ってきた

岡 田 茂 久

昭和24年7月1日、従来から組織されていた登山部を改組して再出発した京交山岳部、今年度で35周年を迎えようとしている。ちなみに63年第2巡目の“京都国体”を目前にして準備に大奮の京都岳連も今年35周年を迎える。

1からの出発を意味する甲子の歳でもあり、35年の伝統の歴史を誇る京交の前途を考えるときなんとかその進む方向の一つの転機としたいと企画運営一同いろいろと思索しているところである。しかし部員百数十名を擁する山岳部ではあるが、当職域山岳部の宿命ともいべき勤務体系と山行との整合の難しさ、そして40才を越える部員の平均年令の高令化の傾向、より高度な山岳活動を望むためにはどれも無視できない大きな問題であるが、これらを解決するこれといった妙薬もないのが事実である。現局情勢においては若い血の導入等は望むべきもなく、昨年一昨年と主テーマとして掲げてきた“若いリーダーの育成”も一定の成果を掲げ得たものの彼等とて我々に比べ年が若いというだけである。そのため昨今の山行例会をみると“中・高年向きの登山”のその占める割合が大きくなってきているのがつらいところである。

又総会における事業報告にも述べたとおり、山行活動の集計をみるとやはり上位には企画運営リーダーの名が占めている。もっと部員諸氏諸兄の積極的な山行への参加が望まれるところであり、そのためにはより魅力ある企画を立案し、我々のマスターベーションに終ることなく、部報講読のみというペーパー部員化されている諸氏にも“いっぺん行こうかな”と腰を挙げていただけるよう一層努力する必要性を痛感するところです。

それと共に今年は全体的に“声かけ運動”を提案したいと思います。従来から一部の支部では実行されており相当の成果もあるようです。集会・例会のおり“今夜集会やけど行こうか”“今度の例会面白そうやで”ちょっと一言となりの部員、見かけた部員に声をかけて下さい。一人でも二人でも少しでも多くの部員が参集することにより、将来への道も開けるのではないだろうか。

ともあれ30周年の屋久島宮の浦岳につづき、だれでも参加できるという意のもとに“北の北利尻岳”への遠征プランも佳境に入り、20数名の参加希望者となり第1回の打合せ会も終了してい

る。その他春・秋の集中登山、山岳部のみの家族を含めての登山大会、秋の文化祭には写真展、山岳部オリジナルの35周年記念品の製作も着々と進み7月には手元に配布される予定です。

今年度はより多くの部員諸氏の山行・集会への参加を願ひ35周年を全員で祝い、伝統ある京交山岳部の歴史をたたえ、より躍進の年としたいものと思っています。

第1472回例会

真妻山・赤城山・立伍山

(川原河)

(御坊)

(動木)

伊藤潤治

せっかく期待を集めていた「日本ヶ塚山Ⅱ(△1,107mとその周辺(第1472回例会))」だが、思いがけない寒波が続き、この奥三河の山には歯が立たないと判断、急ぎ、紀州の山を登る事にした。そんな理由で目標を変更した山行だが番外とせず第1472回例会として前掲三山を報告する事にした。

真妻山

2月11日早朝河村君の車を出してもらって拙宅を発ち、名神・阪神両高速を経て、R26号線から阪和自動車道に入り、紀の川SAに寄る。ここまで2時間であった。雪はその雄の山峠付近に少しあっただけである。紀州に入ったばかりだが早くも前途を楽観できてうれしかった。

海南からR42号線に出て有田川にくと左折させずに左岸へ直進させる橋ができていた。そろそろ今夜の宿探しだが、清水町最寄りの藤並までに済ませようと思い、二人の目で電話施設を求めながらその問合せ先は役場か、警察かと話している間に藤並にきてしまい、取あえずフジ石油へ「宿屋を知りませんか。」と馳けこんだ。

この店主も清水町はご存知なくて、電話の拝借となり、駐在さんからセイシン館とおもてや、の旅館名と電話番号を教えてもらい、おかげさまで後者に泊れる事になったのである。フジ石油にお礼をのべ、御坊市でR42号線と別れ川辺町ルートにのる。ここにも新橋(野口橋下手)が完成し日高川左岸に渡れ紀勢本線をくぐった先では、新旧の道路標示難解にとまどい、山野(さんや)の三叉路に着く。

予定は、市川から印南町界を踏んでの登頂であったが、山野から登るより親切に説明して下さっては従わねばなるまい。その山野会館横から細い補装路に入り、狭くて休みなきカーブの応酬は緊張の連続。どこまでこれが続くのか不安に思っていると、△261mの東でやっと平地があり、ほっとしてその余地へ駐車の上自分の足で登りだす。暫らくミカン畑と補装車道であったが、約330m付近から秋色を残す雑木林に見とれて登り、420m峰からは申し訳ばかりの雪を踏む緩やかで清々しい東行わずかにして、あっさり真妻山Ⅰ(△523.4m)であった。真妻山は観音堂や櫓、山と海の展望をそなえている気持の晴れ晴れする山頂であった。

その後、真妻山の山名起因や観音石像との関係を気にしていたところ、仲西政一郎氏の玉稿「真

妻山」に、山名は応神天皇の頃、高野山のふもとに天降られた丹生都比売明神が、トビに乗ってこの山に遷座されたとの伝説により姫神の美称から起ったものと、「紀伊国名所図会」には記している。一真妻明神を祭る真妻神社は山をめぐる村里の各所にあり一 以上等があったので抜 粋 させていただいた。

観音石像は、清水長一郎氏（川辺町誌編集室）によると、観音堂はもと現位置から東尾根をやや降った所にあり今もその旧地から江戸時代の古瓦片が出土するという。明治時代まで早瀬の時は雨乞いのため村人がお参りした。その後、同町内大滝川の月照寺に遷祀したこともあったが、観音像は旧地の山上を慕われたのであろうか、大滝川地区に不祥事が続いたため、大正12年2月、山の所有者から敷地の寄進をうけ現位置に奉祀したという。例年旧暦3月17日は観音の御会式で、地福寺住職の勤行のほか、大滝川区からの投餅があり一般人の参詣者がひきも切らず大変な賑わいぶりを呈するという。

以上であって、何となく観音像は真妻山の主の感じだとすると、神仏混淆の頃は真妻明神奥宮の主神ではなかったか。

真妻山の自然 乾 風 登。

真妻山は大樹老木には恵まれていないが、動・植物が豊富で特に暖地性のものが目立つ。植物ではキイセンニンソウ、サツマルクミノキ、バクチノキ、カギカズラ、キクシノブなどがあり、なかでも早春芳香の白花をつけるカツラギスミレの群落は非常に珍しい。

昆虫ではインガキチョウ、ウラゴマダラシジミ、コノマチョウが多く見られ、このほかオオムラサキ、ムカシヤンマ、ルクセンチコネなどの珍しいものもある。

また大滝川にはカワガラスが多く大滝付近で営巣する。大滝周辺の自然林は、「大滝原始林」として早くから県の天然記念物に指定されていて、今もよく保存されている。

（御坊山岳会誌、はてなし、第4号より）

赤 城 山

赤城山には、真妻山から往路を紀勢本線ぞいに戻り、日高川を渡って小熊・土生を経て千津川につき、最短コースを選んで登った。千津川では戸根政吉さん達から山名を教わり、コースの相談にのってもらい。戸根政吉さんには、案内をしようか、とまでのご協力をいただいた。

ここもミカン所であり、道はやはり補装で狭い。古垣内をすぎると左岸にかわって巾広い地道で植林と裸木材に挟まれた日陰の谷間に入る。湯水期のせい、伏流なのか、パイプの取水のためか溪水は無に均しい。取水パイプの所々では、漏水が飛散しながら氷結しているなど、妙に寂寞としていた。午後二時半すぎの谷間では陽気がただよわないのが当然かも知れない。気味わるくなってあまり突込まずに駐車、登りだす。歩いてみると思ったほどの陰気はなく、すぐ林道終点。そこで右岸に渡り、そのまま行く道と別れて右岸の踏跡を直進して右へ右へと谷ぞいを辿って尾根に上った。そこは標高350mで道があり、付近に「19番 霊鹿山行願寺を刻んだ観音像」が安置されていた。次いで「20番 善峰寺」と「21番 穴太寺」この辺りから雪を踏むようになって、日高有田両郡界を走る白馬山脈では、「22番 総持寺」が祭ってあった。

白馬山脈へ左折するとにわかには照葉樹が茂り灰暗くて雪の固い道。これを興奮と緊張の足どりで登ると、感激の待っていた赤城山[■]△530mの頂きであった。なぜか櫓を打かいさせ、展望はなかったが、登頂の歓びには変わりはなかった。往略を下山。萩原からR42号線に出て藤並に戻り、フジ石油で給油。今度は清水町精通の若者が居合せ「おもてや」までの概念図を書いてもらえ、安心して旅館に向えた。

ところで一部お目にかかれた西国三十三番の霊場について「矢田村誌（昭和35年刊）」は、第一の札所は千津川尊光寺にあり、それには「第一番 是より三十三番藤滝へ四十七町」と彫られていて、順次藤滝街道に沿い、峠を越えて有田郡津木村領に5,600m降った石造札所が納所になっている。

また藤滝・藤滝越は、日高郡と有田郡の境に聳える白馬山脈を横断するけわしい山道で、海拔約500mと高所を越えるもの。この峠を有田郡津木村へ5,600m降りると小さな瀑布があり、傍に古い藤蔓が生い茂っていた。藤滝というのはこれから出た名である。峠を越える道は中津川と千津川の二筋があり、早藤や丹生野口方面から有田へ行くには鹿ヶ瀬よりも近道になるので、紀勢線が開通するまでは科用者が多かった。昭和18・9年頃までは、毎年正月4日に地もとの中津川と千津川区民が道普請をしたが、今は時たま炭焼や猟師が通るだけで全く荒れはて、殊に中津川からの峠路は殆んど人が通れぬ位である。この峠略はかなり古くから開け、有田と日高を結ぶ要路として徳川時代までは盛んに利用されたらしく、今も各地に藤滝越の道しるべがある。「又藤滝越と云は道成寺へ出るに一里も近し、藤滝より道成寺へ二十四丁也、千寿川（原）にて百姓家に止宿もなる丸岩と云深山あり、岩茸等も出る。藤滝越は人馬共往来なり。一「小原桃洞著、熊野採薬巡覧記」。とあって、当時有田方面から道成寺へ参詣する者は、多くこの峠を越え、また千津川の民家は旅客を泊めたことがあったらしい、等々をのべている。

2月11日 出発 5:48 一紀の川 SA 8:00～8:23 一フジ石油 9:05～9:20…山野奥 P 10:35～10:50…真妻山 11:45～13:00…古垣内奥 P 14:50～14:55…1 9 番札所 15:35…赤城山 16:03～16:18 一フジ石油 18:20～18:35 一おもてや 19:30

立伍山

立伍山の読みを「コンサイス日本山名辞典」で見ると「たつごやま」だが、清水町の呼称は、「たてごやま」であった。おもてや（面矢）旅館に落ち着き、立伍山の登略をたずねると、役場から「清水町全図」をもらい、その図へ猟師からコースを入れてもらって下さった。

その猟師のコースは、私が三本引いてきた予想線の特丸であったから思わずにやりとした。つまり、午前中に立伍山を登頂し、午後は尖峰山の登頂も予定していたから、まさに計画図に当れりとうれしかったのである。

12日、鶏鳴がしじまを破ったが暗く、明るくなっても曇り空だが気にならなかった。けれど「おもてや」では、ちゃんと天気予報を聞き、崩れるらしいから降り出さねばよいが、と心配して送りだしてくれた。

登山コースは、立伍山と丸尾山を分けているノイコ谷の養魚池からである。有田川をさかのぼり

沼谷に渡る吊橋を左に見て、ノイコ谷右岸へ入る。左岸にかわると氷結した雪道、溪間は流石に雪が多く養魚池をちょっと通過。うまく後退して駐車の上、道形を踏んで対岸につくと滝をかけた谷があり、その左岸には子安地藏尊の御堂と小祠を祭る台地があるが、道はそこまで。

猟師のコースは滝をまき、谷筋に引いてあったが、私たちはそれを嫌い地藏堂を背にして左岸尾根を登った。やがて左右の谷から植林帯が顔を出すようになると、防火線としてだろうが、ぜいたくな幅員の尾根になる。標高560m付近で尾根は左へ振る。その辺りから山頂稜をのぞくと、二峰頭が立ちその立派さに本峰はどれ？ 瞬間とまどった。尾根に東面すると右が深々と静まりかえった人工美林。一部自然林を挟むが奥地に上るほど茂った美林であるのに圧倒される。

美林内でコーヒーをたてていると小雨がばらつきだす。尾根は左へねじれ、右へもどし、松の奇形巨幹に目をみはらせ雪も深くなり、やがてヤセ尾根から急坂になって高度を稼ぎ山頂稜に上った。そこには、そう古くない踏跡がついていた。踏跡は本流から上ってきたようである。輪かんじきを欲しいと思う雪量になってこの踏跡はありがたかった。800m辺りで植林帯を抜け切ったと思っていると、ここでもたくましさの構図といえるきちんとした林立があり驚きだった。踏跡は漕に立寄り左折し、この人は登山家ではなかったらしい。

漕はおどり場に50cm余の雪をのせ、標石にも積らせ、うれしい光景だった。私たちはせっかくの登頂だからと美しくて惜しいような雪を払い、立伍山(△948.6m)の標石をなで、二等の文字を確認。つつみきれぬ喜びにひたり、ささやかな祝盃と昼食を始めた。その頃からあられが降りだす。あられを浴びて飲食のあと木立が茂り展望のない山頂を辞し往路を下ったが、あられはやがて雨に変わり下山すると本降りであって尖峰山は登れなくなっていた。

ぬれたまゝ「おもてや」へあいさつに寄って着がえ、コーヒーをご馳走になって帰路につく。R42号線に出て安価で美味のみかんを求めていると、雪。連休帰りが一斉に家路についたためか、渋滞が海南までつづいた。しかし阪和自動車道で通行止を喰わなかった事は不幸中の幸いであった。

2月12日 おもてや 7:10…P 7:35…ティタイム 9:35～9:55…立伍山 10:54～11:40…P
13:00…おもてや 13:30～14:05…みかんを求める 15:20…紀の川SA 16:40—
名神京都南 19:37

登頂メンバー 河村敏夫、伊藤潤治

1984年3月12日

今月の集会

4月10日(火) 下鴨寮

企画運営リーダー会

4月20日(金) 岡本宅

第1473回例会

幻想的な北山逍遙記

津 田 実

3月19日 石仏峠から医王沢を経て祖父谷峠、雲ヶ畑へ抜けるべく早くから予定していたが、近年稀な豪雪の為、止む得ず貴船山△699.8mに変更する。8時40分に北大路に集合して京都バス雲ヶ畑行きを待ったが超満員で乗ることが出来ず、何時も出る臨時バスも出ないというので仕方なくタクシーで行く。

ところが小生らの乗ったタクシーはチェーンがないので出合橋手前の工事箇所が通過出来ず、カチンカチンに凍り付いた道路を15分程歩く破目になった。(余り悪いことはしていないのに。)出合橋で全員集合。本日のメイイベント、荒田さんのお嫁さんを紹介すると、余りにも若く綺麗な女性なんで全員僻んだり、嫉んだり大変な騒ぎになった。閑話休題。

中津川に添って歩き出す。此の道も長いこと歩いてないし積雪の状態が判らないから、前日に下見をしたかったが仕事の都合でそれも出来ず、伝聞では相当雪が深いらしい。然し、本日の参加者は雪山の経験者が多いし、部長、副部長、奥村さんらが参加されているので安心だ。道も先行者があるらしく踏跡が続いている。三橋さんと大槻さんのお嬢さんがスキーを付けて歩いていられたが雪が湿って滑りにくい。誰も交代して呉れるものがないので難儀していられた。2km程歩いた地点で先頭と後方が少し離れ出した。余り疲れて貰うと後が大変なので一本立て尚も進み魚谷峠の分岐点で二回目の休憩をとる。

気温プラス2度、積雪30センチ位、マアママと云うところか。魚谷峠への道は踏跡なし。直谷へは以然踏跡が続いている。先行者は多勢らしく、それも可成りのスピードである。樋ノ水峠の分岐点で先行パーティが休憩していられたので我々も少し休む。先行パーティが樋ノ水峠方面へ出発しられた。これはどうも同じコースを辿るらしい。困ったことに成った。これでは雪中歩行の練習にならないし、先行を譲ってくださいとも云い出せないし、仕方なく歩き出すと先行パーティのリーダーらしい人がこちらへ歩いて来られた。「どうしました。」と尋ねると「雪が深く、道はヤブと谷に塞がれて前進出来ません」とのこと。此れ幸いと我がパーティが先行する。

誰も歩いていない雪中を歩くと云うことは誠に嬉しいものだ。前方を好く見ると夏道が好く見える。成程、前方に枯藁が道を塞いでいたから谷によけて進む。積雪は谷心の関係で膝上位でたいしたこともなく、前方を好く注意して行けばよい。途中で部長がトップを代って呉れ、更に副部長が先頭に出られ、小生大いに助かる。フト後方を見るとあと二・三人足らない。ヤッホーを掛けても応答なし、こらえらいことになった。ルートを切り開くの一生懸命で後を置いて来たらしい。引返そうとしていると全身雪まみれになった変な生物が出現した。「どうした」と声を掛けると「ワカンを付けていたので遅れた」とのこと。ヤットの思いで谷を抜け開けた明るい日差しの差す地点

に出たので少し風があるが時間的にも正午を過ぎていたので食事にする。メシと聞いた途端に元気が出るケツタイなヤツがいるのが、我がクラブの特長である。小生も餅入りラーメンを作成に掛かる。小生は山へは真夏を除き、何時も持参する。ことに冬期はこれに限る。材料はスーパーに売っている四角の餅4・5個とラーメン2・3袋、それに青菜少々、小さな取手の付いた鍋とEPI、熱湯入りのテルモス以上である。EPIは燃料の残量に注意、途中で切れるようなことがあると不時のときは命にかかわる。それと、EPIを雪面にじかに付けぬ工夫が大切である。周囲を雪でかこんで風の当たらないようにするのは好いが、雪面、又は雪中に置くと燃料の温度が下がり気化しにくくその消費量に反して熱効率が悪い。(小生はワカンを下にして使用しているが。)

荒田御夫人も余り疲れていられないらしい様子で安心。山慣れていない女性を雪山へ連れて来て惹きさすと後で又やんにボヤかれるのが辛い。然し、何んと云う美しさだろう。小生のような文才のない輩にはうまく表現出来ないが幻想的と云うか、此の世のものと思えぬ美しさ。自然とは、たいした芸術家である。権謀術策、自我、欲望、およそ人間社会に存在する凡ての邪悪をその真白な雪片で覆い消滅さす。ホモサピエンスの後裔にはとても考えられぬことだ。

雪山は極々しく登山者を退けることもあるが、今日のように温く迎えて呉れることもある。そのサインさえ見誤らなければ此んな楽しいものはない。閑話休題。

余り長い間休んでしていると体温が下ってあとの行動に支障をきたすので出発する。動き出すと少しの時間で樋ノ水峠に着いたが、判官坂を右に見て貴船山三角点へ向う。5分程のラッセルで三角点到着。憎は健在で雪を掘って点標石を確認、万才を三唱した。

思へば宮後さんと雪中を此の地に辿り着いたとき、同行の大槻さんのお嬢さんも三橋さんの功ちゃんも少さかった。それから判官坂、気になる山への登頂に成功して此の三角点で休んだ。そのときも深い雪だった。然し、もうその彼は他界した。人生とは儂いものだ。いずれは誰もが旅立たねばならない黄泉の世界。だが、彼ともう少し山へ行きたかった。諸行無情。

それからユリ道に出たが滝谷峠からの踏跡はなかった。時間が早過ぎるので此の地点で小休のち二ノ瀬駅迄で一気におりたが、登りに難儀していたスキー組は、流石文明の利器、駅で寒く成る程我々を待ったとのこと。

参加戴いた皆様ありがとうございました。荒田さん御夫妻また御一緒しましょう。

追記 2月27日、NHKテレビで豪雪と戦う北陸地方の人々の姿が映っていたが、その姿を見るに付け、北越雪譜の文面を思い出し、我々の行動もその雪との戦いのウォーミング・アップとご理解戴きますよう。

〔参加者〕 奥村弘信、荒田又之助夫妻、松井郁雄、石田 弘、岡田茂久、和田良一、
大槻雅弘一家4人、三橋 勉、大木秀美、井戸登夫、津田 実 以上15名
〔コースタイム〕

出合橋 10:10 …林道岐レ 10:50 ~ 11:05 …直谷岐レ 11:50 ~ 11:55 …昼食 12:40 ~ 13:40
樋ノ水峠 14:15 ~ 14:25 …貴船山2等三角点 14:30 ~ 15:00 …ユリ道合流手前切開き 15:15
~ 15:30 …二ノ瀬神社 17:10 …電車 17:45

奥越 法恩寺山スキー登山

2月25日(土) 晴時々くもり

大 槻 貞 従

豪雪のため大日岳は無理だということで、法恩寺山に変更された。変更されたといつてこの山は3年程前から計画されていた山で、私にとつても福井県大野山岳会小沢さんから事情を聞いていつかは行きたい山だったのが、早くも実現される運びになり、万障繰合せて参加させてもらった。

朝6時山科インターを出発し、8時50分には浄土寺村に着いており、いつもならこれから仕事が始まる時間なのに、我々は遠く福井の山の中に居るとは便利になったものだ。湯の谷川沿道約3kmが運よく4~5日前除雪されたところらしく、かなり奥まで車で到達出来た。そこに「法恩寺魚苑」なる立派な料理旅館があり、ここで車を置かせてもらってスキーにシールをつけ出発した。今日は3月中旬のポカポカ陽気でのんびり林道を進んだ。800mぐらいの所で右手沢筋に人の足跡があり、それをたどって尾根にとりつきぐんぐん高度を上げていった。雑木林の急斜面をジグザグに上ると約40分で稜線に着きなだらかな台地が広がってきた。雪はあまり良くないが、振り返った目に真白の大日岳がそびえているのが印象的。しばらく行くと個人の農小屋(一つはつぶれかけ)が2軒並んでおり、ここにデポしようと鍵を開けたが閉っており、残念ながら先に進むことにした。なるほどなだらかな台地状の地形に、今度は杉林の中をぬって進んだ。又、雑木林と広場と交互に山の様子が変わっていくが、目印になるような目標もないので、地図と磁石たよりの登高だ。一服する度にすばらしい景色が広がっていく。前方になだらかなすそ野をなびかせた法恩寺山が姿を表わした。なるほど関西のクラシックスキーツアーコースだけあって、広くなだらかなコースだ。思わず疲れもふっとび、ベースが上っていく。ただ心待ちしていた平一小屋と市の植林小屋は見つからず、重いザックがよけい重く感じられ、最後の中ノ平小屋までザックを持って上ることになった。林道をたどるより少々傾斜はきついが直登する方が林間の変化もあり楽しい。林道と交差した所で昼食にした。昼食后しばらく進んだ地点で待望の中ノ平小屋を樹林越しに見つけた。青い尖がり屋根(2階建)のスマートな市営の小屋。運よく一人先客があり小屋を開けていたので重いザック毎こころがり込んでヒーヒーハァハァ背で息してしばらくひっくり返っていた。やっと着いた。やれうれしや、これからが楽しいツアーの幕が開く。PM2時、中ノ平小屋を軽装で出発。頂上まであと30分ぐらい。しかも広々した富士山のすそ野(ちょっと大げさ)かと見まがうだけ、かんばとぶなの疎林を思いきり大きくジグリながら前山を越えたとたん、前方にガンガン・ガガと真白い峰々が姿を表わした。完全な感動の瞬間、なんとこんなすばらしい世界があったのか。私にとっては写真集でしか見たことのないヒマラヤの連峰を真近に見たような気がした。やあ、すばらしい。とうとうやった。そのヒマラヤの峰々が一步一步我々に近づいてくる。パンザイ、パンザイ、パンザイ。

今日のバンザイは皆気合いが入っている。信州の3000m級の山々でも、すそ野は樹林のまんだら模様が見えてまざりけなしの色の山は見たことないが、今回はじめて白一色の峰々を見た。経ヶ岳、白山、別山、一の峰、二の峰、大長山、取立山等である。

法恩寺山は広々とした山頂で、雪はクラストしてさすが寒い。梅酒で乾ばい。我々は運が良い。一回で秘境の峰々をはっきり見ることが出来た。一分でも長くいたかった。下るのが惜しい。15時白い連峰と別れて滑降することにした。中の平小屋まで壮快無比とはこの下りをいうのだろう。大斜滑降に次ぐ大斜滑降。林間をぬってキックターンの連続、初日おわり。

快適な小屋生活を楽しんだが、翌朝はぜんぜんあきません。低気圧の通過で雨ふり。小屋はストーブ、薪、便所、ベッド、長椅子、日記帳等完備の30人用の大きな無人小屋。一人地元の山好きのおっさんが泊っていたが…。

朝8時出発。ガスっているのでまよわないよう安全を直行し林道を帰る。思ったより傾斜がついており、こがなくてもほどほどにすべってくれた。しかし最後の沢筋に来たときには、へいこうした。悪雪でグサグサ、大槻敏、武田両氏は先にスイスイ下って行ってしまいが、こちとらと古市さん二人は、大穴の開けどうし。古市さんは、これ又豪快につっこみ杉の木に板を取られ、逆づり。「大槻さん、チェーンソーで樹を切り倒してくれませんか。そやなかったら足がぬけへんで。今度来る時には、チェーンソー持って来なあかんなあ」のん気なことを言いながら、内心あせりながら悪戦苦闘。下からは両先輩が心配して、オーイ、オーイと呼んでくれている。

私はおかしなこけかたしたのか、腰がつっぱって、びっこ同然。顔で笑って心で泣いて、やっと両先輩の待ちうける林道へたどりついた。やれやれ。それにしても両先輩が、なんであんなに速く急角度で下れるのか腹が立って来た。古市つぁんもよれよれで最後におまげがついていた。前のめりに頭を雪面に着いて三点支持で2~3mすべったとか。笑い話ではない、本人は真験なのだから。やっと魚処に着いた。あつい紅茶がうまかった。京都着15時

〔参加者〕 武田、大槻敏、古市、大槻貞 4名 車1台

〔コース〕 京都-福井北インター-勝山-浄土寺村…法恩寺魚処…中ノ平小屋…法恩寺山…
中ノ平小屋(泊)…往復

第1475回例会

冬山トレーニングに参加して

3月3日~4日

広瀬 光太郎

京都山岳連盟主催の冬山トレーニング(於伊吹山)と京交山岳部の例会とドッキングした形で冬山での基礎技術の講習会がもたれた。参加者は、全体で約30名ぐらいあったが、京交からは、今回地区指導員を受ける吉田武氏と私の2名で寂しい限りである。

私は、比良トレーニングと同様生徒役ということで参加したが、生徒役の人数が少なく検定を受

ける者が5人に生徒役1人という形になった。

第一日目は、各自登攀の検定は、私が滑落する役で、受検者が停止する役で、約15mぐらい滑落をする。平均斜度30°以上の斜面では途中から頭が谷側になりその恐ろしいこと。2回、3回と落ちると、雪がしまり加速度がかなりついてなかなか確保も困難で、受検者もとばされてしまう。これを5回、それぞれの受検者から概要説明を聞き、滑落すると相当の体力が消耗する。これが終わると、次はアイゼン歩行の検定で私は聞き役である。じっと聞いているだけでいいかげん寒くなっていやになってくる。時刻も5時を廻り、山もガスがかかりあたりも暗くなる。帰りは伊吹高原ホテルまで、スキーで滑る。夜はホテル内でアイゼン、ピッケルの概要説明が行われた。

第二日目は、連続登攀とピッケルストップの概要説明と実施検定が行われた。昼すぎに全体が終了し、私はスキーで滑って下山したが、吉田氏はスキーを持参しておらず、リフトで下山した。私の方が早いと思ったが、吉田氏の方が早く、かなり神社前で待ってもらった。今回の伊吹での検定会は、私自身生徒役に参加したが、基本的な冬山での基礎技術は十二分に聞き、今後の冬山を登る時に大いに生かしていきたいと思う。

大野ヶ原・源氏ヶ駄場 (蘇野峯) 1,403

坂井久光

昭和58年11月25日(金)

勤務終了後家に帰り直ぐ登山服に着換えて出発。阪急で梅田に出て国鉄で弁天町へ、久しぶりの四国行の関西汽船の船旅を味わい翌26日松山港へ。バスで松山駅に行き国鉄で加藤氏の城下町大州へ。大州駅前まで昼食をとり少し先の愛媛交通バスの営業所へ行き、大成行に乗り終点坂石で下車。惣川大久保行バスに乗換える。一昨年来て泊った鹿野川ダムを通過して肱川源流へ谷添いの車道を走った。谷を高巻いて狭い離合ヶ所も少い道だが車も少い。惣川の大久保終点で下車したのは私と学生1人丈であった。

昔は大野ヶ原へもバスが入っていたが、マイカーの普及で乗客が減り、麓の大久保迄となってしまったので、車道から旧道へ入り杉林を登り、新雪を踏んでカーブの多い車道を横切って高度と距離を稼ぐ。道が再び車道に出た辺りから車道を歩いて寒い風と戦って、且つは秘境と云われたカルスト地形の大野ヶ原へ向った。途中にも石灰岩が所々露出しており、天狗高原からこの辺り迄石灰岩層で覆われている。やっと牧場らしい建物が見えて車や人がいる所へ来たが、そこから更に2km近く歩いてやっと大野ヶ原の中心地竜神社や学校のある所へ着いた。更に上部に鉄筋の建物があり宿舎と聞いたので訪れたが、研修センターで、本日は留守で下の高原荘へ行ってくれと云われバックして竜神社の前の旅館に行き一泊した。

同宿に入幡浜市と愛知県から来た青年がいた。この宿の主人の武田寛氏は大野ヶ原開拓協同組合

の長として今日の近代的酪農経営を成功させた人と後で大野ヶ原の歴史を知る資料を尋ねた時始めて知った。山頂の一等本点のある森野峯は源氏ヶ駄場(馬)と云い、東の三等△1,342は牛城と云うと教示を受けた。お借りした開拓史によると、昔弘法大師が此の地を訪れたが水の便が悪く帰られたとか。又源平時代に合戦があったとか伝説があるが、歴史として天正年間久方の大徐城主大野山城守直昌と長曾我部元親がこの地で戦ったとか。明治になって陸軍の演習場だったが、熊笹とスキの広野とブナの原生林だった雄大なこの地に大正から営林署が植林を行い、その後戦前から戦後に放牧場になったが、終戦になり海外より復員軍人の増加に依り食糧不足がひどくなり、政府の緊急開拓事業実施要領が施行され、昭和21年に開拓隊員15名が入植した。

当時宿舎がなくテントや古くからの竜神信仰で祀られているお社の堂を住居として火田焼畑農歩で始められ、4mを越す高原の寒さや台風の為、食糧となる米・麦は育たず困難にひしがれ離農者が相次いだ。が、新たな開拓希望者が入山し、大根の栽培が当って一息つき、次いで牧草の育成に依る酪農経営に転じて今日の近代的豊かな農村となったのである。

当時の苦労は水は社の裏の池の水を利用したのでお玉杓子に入った飯や汁を食べたこちもあったとか、それが水源の確保で水道となり電気も道路も開通してバスや車が通るようになり、物資の交流が便となり皆が豊になったが、その間離農する組員を引留め東走西走した武田氏の苦労は並大抵でなかった。

翌27日 風が寒いが雨で宿を出て源氏ヶ駄場へ八十八ヶ所の観音像の立つ登山道を進んだ。尾根筋に出ると車道が登っており、途中休憩小屋があり、山頂にも小屋が立っていてその傍に一等三角点があった。一面の石灰岩の露出する草原で展望は広大であるが天候が余りよくなく、南に高研山や南西に雨包山、北に大川嶺が大きく高原状に見えた。東に牛城・五段城のピーク。

申し遅れたが、竜神の池は周囲100m程の小池だが、中の島(松・杉2・3本)があり、結氷していた。積雪は後3cm程であった。東に向かって下山するが、石灰岩の露頭が沢山屹立しており山麓にはドリネ(すり鉢状穴)も所々ありカルスト地形を呈していた。地芳峠に向う車道に出て途中牛城1342の手前でヒッチして地芳峠へ。ここで昼食休憩後姫鶴平へ向う。車道よりカヤ原や雑木林を登って△1310へ。三等であった。東方に五段城のピーク。更に東方に石槌山に続く四国山脈の山々が、北に丸石山や大川嶺が大きく望め、南に高研山や礪原の山々が、東に五段城から石槌山と続く山々が見渡せ、西に牛城や源氏ヶ駄場が見えた。地芳峠に戻り、車道を北へ下る。国道440号線で破線路は驛道となり下り口さえ判らない。途中松山へ帰る車をヒッチして落出に出て国道を一路松山へ。時間が余ったので道後温泉で汗を流して松山港から関西汽船で翌日神戸に上陸して阪急電鉄で帰京した。

【コース・タイム】 11/25 18:15 四大 18:55～19:00 梅田ー19:24 弁天町ー19:35
 ～21:00 弁天埠頭 11/26 7:45～7:55 松山港 8:40～9:50 松山駅ー11:52
 ～12:27 一太州…13:43～13:45 大成…14:40 惣川大久保…16:20 大野高原荘(泊)
 11/27 9:43 出発…10:20～10:35 源氏ヶ駄馬…11:15 林道…11:40～12:30
 地芳峠 13:07～13:10 姫鶴平…13:50 地芳峠…14:40 ヒッチ…16:15 松山…17:00～

年末・年始の九州の山旅

坂井久光

12/28 会社の勤務終了を待ってリュックを担いで四条大宮へ行き、阪急に乗り梅田に出て地下鉄に乗継ぎナンバへ。南海電鉄に乗り泉大津で下車、タクシーを待ちフェリー港に行きなじみの阪九汽船に乗船。年末とて客室は満員であった。翌29日小倉港に上陸。タクシーで小倉駅へ。新幹線に乗り博多に行き熊本行特急有明9号に乗り、熊本へ。

熊本駅に着くと前以って今西さんからの紹介で知合ったJACの本田・奥野両氏の出迎えを受ける。車で早速尾の岳へ向い、途中ドライブインで昼食をとりお互いの紹介や今後の予定を話した。菊池温泉を通り、菊池溪谷沿いに有料道路を飛ばす。積雪5cm余り、スバルレオーネの全輪駆動でチェーンなしでも走れるのが魅力。山麓に駐車して積雪10cmの斜面を登るとカヤ原の山頂へ。一面のカヤ原に所々アセビの生えている高原の一角で一等三角点がすぐ見つかった。記念撮影後少憩して曇天の為余り展望はよくなかったが、八方ヶ岳や津江の酒願童子山が見え阿蘇山も望められた。車に戻り熊本へ阿蘇の大観峯を経て阿蘇山の火口原を通過して戻り、法華クラブと云うビジネスホテルへ案内して頂き二人と別れた。

翌29日 本田氏に代って奥野氏がライトバンの愛車で迎えに来られ、天草へ向う。天草五橋や三角港の風景を賞で乍ら倉岳の林道を登りつめ終点の駐車場に着き、下車して直ちに積雪を踏んで九州自然歩道を通り常緑樹林を登るとお社があり頂上へ。展望は雄大で天草や雲仙が一望出来た。

一休みして駐車場へ往路下山。角山へ向った。トンネルを抜けた先の林道の分岐を右折して山頂近くの民家へ行き登路を聞く。登路は鳥居のある地点から山道が上っているとのこと。約2kmばかり先で鳥居を右手に見付けて辿ると金毘羅宮の参道で、お社の後の踏跡程度の道を探し乍ら登って尾根に出るとよい道と出会い、左へ樹林の中を登ると山頂で一等三角点があった。二人で万才三称後撮影して東へ向って伐採地を下山。展望は周囲が林でよくなかった。車に戻り今夜の宿を天然温泉の下田ときめ、下田の観光ホテルへ送って頂き、厚く礼を述べて別れた。

明日からは1人旅でこの晩スナックで浅酌で歌を歌ってホテルに帰り就寝。

12/31 朝から雪がちらつきバスで牛深港へ、フェリーで蔵の元へ行きバスやヒッチで出水へ行き、タクシーで矢筈峠へ行く積りで運転手にそう告げた。昨夜は風が強く、戸鳴りがひどく熟睡出来なかったので少しうとうとして林道に入った。道が悪くなった処で帰したが、峠道でなかったのが後で判った。営林署の林道でおかしいと思ったが、登って見ると頂上が反対方向の右に見える。それで運転手が間違えたのが判ったが後の祭りだ。蔵のトラバースで尾根に出てやっと道を頂上へ向ったが時間がかかり、頂上へ着くのが6時前で頂上に小学生がテントを張って3人いた。登ると

吃驚していた。三角点は地面に埋り少しだけ頭を出していた。天気も悪く展望は駄目で、少し下の東の展望所から矢筈峠らしき所が眺められた。少憩後下山、急坂を下ると杉林の中で谷に下ると道が消えた。仕方なく谷を下ったが運悪く懐中電灯は水筒の水がかかった為錆で駄目となり、マッチもしめっていてつかず、がっかりした。併し大した谷ではなし小一時間位で村に出ると思って手深り足先さぐりで下山したが、所々瀬谷だが小滝があり、時間をくった。一度山道に出て又失い悪戦苦闘の末やっと林道に出てほっとした。間もなく一軒屋が見え訪れ車を頼んだが、主人が酒を飲んでいてことわれ、20分で国道へ出れるとのことでした。雪明り月明りを頼って痛む左足をかばって歩き続けた。谷下りで左足をネンザしたのだ。10時頃国道に出たが、ヒッチ出来ず附近の家を尋ねて水俣駅迄送って頂くよう頼んだ。若い兄弟が気の毒がって車で駅前の桂旅館へ送って頂いた。お礼のしるしを渡して名刺を渡しその親切を感謝した。遅い夕食を附近の食堂でとり、風呂に入ってすぐ就寝。

翌59年元旦 ゆっくりして起きたがよい天気で、足の痛むのも忘れて笠山へ向った。田浦駅へ行き、車で大木場の林道終点迄乗り、古い山道を辿って小谷沿いに登った。汗を流してやっと稜線近く迄登ったら道は檜の植林地で消え、林の中を急登して林道に飛出す。林道を辿って終点に行き山道を急登すると山頂で、天測点があった。西に天草灘を見下ろし、田浦港が絵の様に見える。

東は林で展望はきかない。少憩後往路下山して林道を下ると、村人が軽四輪トラックで来て道端の馬頭観音に神酒を捧げるのに出合った。聞けば田浦町横居木の人で、昔この山は細川侯の牧場であった名残りで、ここに暫く水場があって、その頃からの観音様で山も牧山と云う、と話され帰りに車で国道迄送って頂いた。バスで湯の浦温泉へ行き、正月で休養の所が多くやっと一軒見付けて泊った。未だ早かったが早速入浴して足をもんで休んだ。

翌二日市房を諦め、野間岳へ向う。今西さんから良い山と聞いたし、高さも低いので何とか行けるだろうと鹿児島行特急に乗って伊集院で下車。鹿児島交通バス(代替)に乗換える。伊作からガソリンカーに乗換えて終点加世田へ。バスの便悪くタクシーで笠沙町の登山口へ。登山口に神社から30分とある。神社迄30分位で行けると思って車道を歩いたが一時間以上もかかり、頂上に着いたのが夕方と一緒に鹿児島の飯屋氏の車で神社から加世田迄送って頂いた。野間岳は結構けわしい登りで山頂から眼下に野間池(漁港)や開聞岳も見え、北に天草や島原も見える好展望の山で、死火山で野間とは中国の女神で住吉の神とも関係があり、渥美半島にも野間神社があり同一系統と思われる。

加世田から鹿児島行の最初バスに乗り、坂上で下車。指宿線に乗換え、指宿の旅館で一泊。翌3日バスで開聞岳登山口で下車。開聞岳を往復、良い道だが岩から岩の断崖沿いの所もありけわしい所もあり、頂上は巨岩の山であった。弁当を食べてすぐ下山。鹿児島へ指宿経に向ったが、時間が遅くフェリーにも新幹線にも間に合わず、寝台車は高いので快速熊本行に乗り、終点で博多行に乗換え、博多で夜明かしして初発の下関行に乗り、下関から広島へ行き新幹線で帰京した。

奥 マキノ・スキーツアー

1月15日～16日

大 槻 貞 従

最近私は山スキーに魅せられ、それ用に靴を加工してもらおうべく、村上運動具店へ出入りしていたら、店主からこの計画を聞かされ、三橋氏をさそったところ、かねがね行きたいコースであったということで参加させてもらうことになった。

参加者はベテランの京大教授に和進会の人達に我々2人だ。このコースは積雪1m以上ないと、藪とがけで楽しくないとのこと。今年は2m70もある。運動具店では、毎年11月中旬に立山の初すべり、2月に国境～奥マキノ、3月～4月に葦華温泉ツアーもやっておられる由。

土曜日午後10時の終発湖西線で近江今津駅まで行き、翌日6時始発の国鉄バスで国境スキー場まで行くのに便利なよう、駅の待合室で野宿することになった。バスの待合室は一晚中暖房がきいており、シュラフにもぐり込んで一夜を明かすことになった。見まわすと我々以外にも野宿組が居り、かなりよく利用されている様子。なるほど、いらぬ荷物はロッカーに入れ、帰りに持って帰れるのだから旅館がわりに利用できる。良い方法を教えてもらった。

16日 朝6時のバスに乗るべく起きたが、あいにく外はビュービューと風がうなり、暗やみの駅中央に白銀灯が1本立っており、こうこうした光に、夏の夜昆虫が灯りにむらがる如く雪片が舞い舞いしている。悪い天気になった。一同打合せして国境スキー場からのロングコースは無理なりと短コースに変更した。6時50分発マキノスキー場行きのバスに乗り、スキー場から赤坂山を往復することになった。朝食はスキー場の山の家で一番乗りの味汁にありつけ、これはイキなとゴキゲン。第一ゲレンデから、よく分る5m巾ぐらゐの夏道をふんだんに積った粉雪をルンルン気分で出発した。

少々の吹雪なんか、ぜんぜん気にならず、寒いのがかえってよく、ふわふわの粉雪がスキーの先端を軽々と前へ進めさせてくれた。シールをきかせて1時間程ほとんど直登で切り開かれたコースを登りつめ、ちょっとした広場に到着。ここから尾根をはずれ、鞍部を右へ巻きながらゆるやかに進み、大きな松の木がポツンと立っている所で一息入れた。次はやゝ急傾斜をジグザグに登りつめピークに立った。ここから先がちょっといやらしく谷筋のエン堤を谷へずり落ちないように階段状にジグザグで上った。雪が少ないとなんぎする箇所らしい。ここからも隣りの尾根にわかりにくい夏道らしい所を鉄塔を目印に高度を上げていった。このあたりまで来ると転んでもふんわりした深雪がどこまでも続き、最高の気分にしてくれる。黒いものがない白一色の世界はオトギの国を散歩しているような気分させてくれる。やがて前方に明王秀と粟柄越が見とせざる地点にたどりつき、やっと頂上に近づいた。食事をするにも風が強く、風裏になるような場所が見つからないので、ツェルトを皆んなで頭からかぶり寄り合って昼食とした。ツェルトの中と外では温度が20度程違い

そうだ。いぜん風が強く地吹雪で赤坂山は見えたりかすんだりしていたが、ここまで来たのだからあと一息の頑張りと、シールの状態を点検して出発した。思ったより早く栗柄越の古い標識らしきものが半分うもれて白い雪原に1本ポツンと立っている場所に出た。広いのっぺりした広場から小高い岳が右手にのぞまれ、広々した白い斜面が思いきり広がっていたが、日本海から吹きつけるブリザードで10m先が見えず、手さぐりで高い方へと進み、やっと頂上へ到達した。

時おり風の切れ間から日本海方面がのぞまれたが、ますます横なぐりのアラレまじりの風が吹きつけ、横顔をバシバシとたたきつけ、まともにも目を開けられない。スキーが勝手にすべり出してしまいそうだ。全員登頂したが、寒さとブリザードとで吹き飛ばされそうになるので、喜びもゆっくり味わえないまま、早々に下山しかけたが、今登って来た下山口がどこなのか見つからず、しばらく吹雪が収まるのを待った。30分ぐらい待ってちょっとしたときれ目にそれらしい道を見つけ、やっと風裏に出ることが出来た。そこからは、うそのようにおだやかな白銀の世界だった。途中私は、ちょっとしたトラバースの際、かけ下に転落し元へ戻るのに序々に合流していく方法をおぼえた。もっと雪が深かったらと思うとぞっとする。他の先生方は、なれておられ、確実なフォームでブレーキをかけながら下っておられた。フォームは固くてもしっかき雪をつかんだ滑りをするのが山スキーの本領であることが、よく理解出来た。

村上のだんなは、睡眠不足のせい、何度もこぶら返りを起こし、かなり悪戦苦闘しておられたが無事にコースを案内して下さって、お礼申し上げる次第です。

〔参加者〕 村上運動具店主、A教授、B氏、C氏、三橋、大槻貞 6名

〔コース〕 京都駅—近江今津駅(野宿)—(バス)マキノスキー場…栗柄越…赤坂山(往復)

大文字山

畑 照 人

2月9日(晴)

今年は降雪の日が多かった。大文字中心点(大師堂)から上はアイゼン無しでは無理。三角点で女性グループ(3人)に会う。昼食の最中である。池の谷地藏へ詣るとい同行したいとのこと。職業婦人ですかと尋ねると「家庭の主婦連です。」時々山へ登るとの事だが、服装を見ると中々御立派であり、板についている。地藏へ着いたが詣る気配全く無し。比叡平からバスで帰るといので道を教えて別れた。(推定年齢 30才台) おみくじ9番で吉でした。

愛宕山

2月28日 晴、雪あり

清滝道登り口で、洛西の山歩会水湯げグループに会い「いつも御苦勞さんね。気をつけてよろし

く。」私は月輪寺コースを進む。寺から神社までの尾根道、積雪がグンと増す。約1米。3時間で神社着。気温-4°下りは本道へ。黒門から水尾岐れまでは石段が全部雪の下になり階段を下るより余程楽である。雪の深さ80釐だった。大杉明神でアイゼン脱ぐ。お助水をポリタンに入れ清滝バス亭到着。(約1.5時間)

昭和58年度 山岳部総会報告

山 元 誠 一

昭和58年度京交山岳部総会を3月9日18時30分より下鴨寮で、31名の部員が参加して開催した。広瀬(光)氏の司会により、まず、岡田部長から総会開催の挨拶、続いて58年度の事業報告があった。「山の知識を高め一人一人が巾広い山行の中で若いリーダーの育成」という58年度の活動テーマに基づいて、一年間65回の例会を組み、例会参加者も2月迄で延421名に達し、また、集会も山の知識を高めるという事で、勉強会を行う等活発な活動を行った。さらに若いリーダーの育成という点では、吉田氏が地区指導員に合格される等、序々に芽ぶきつつあるとの報告がなされた。

次いで、58年度の会計報告(決算案)が大倉氏より行われ、全会一致で了承された。(別紙参照) 3番目に、58年度の山岳部の活動表彰について、集会参加、例会参加、例会担当、投稿者の各部門に吉田氏より発表された。(別紙参照)

広瀬(光)氏より事前にリーダー団にてまとめられた59年度役員選出について提案があり、了承された。続いて各支部役員について選出が行われた。なお、欠席支部については後で了承を得るという事で合せて選出した。

5番目に、59年度の会計予算案について大倉氏より説明があった。部費だけで部報の印刷代もまかなえない現状で、合せて部費の1,000円値上げについても提案され、予算案共々承認された。(別紙参照)

補足として、備品については、ビッケル・アイゼン・シュラフの購入に、また、助成金については集中登山等の保険金に充当する旨の説明が大槻氏よりなされた。

6番目に、59年度の年間スケジュールについて、田中氏より企画案の発表がなされた。「仲間と共に山の知識を高めよう」という年間テーマの下、また59年度は、山岳部創設35周年という事で、利尻岳記念登山を初めとする毎月の主要例会の企画が提案された。

その中で、5月の新緑の山 子ノ泊山を大嵐山に変更された他は、了承された。その他、35周年記念登山として6.29~7.3北海道の利尻岳記念行事として、7月10日に記念集会を、また記念品としてオリジナルの小物入れを部員に配付する予定である事や、写真展、部報の特集号の発行を考えている旨の報告がなされた。最後に、岡田部長より締め括りの挨拶があり、8時45分総

会を終了した。その後、集会に移り例会報告や例会予告等を9時まで行なった。

出席者 (OB) 近藤、森下、伊藤、田中定、山村、王生、山下、坂井、奥村、津田
 (本局) 広瀬、山元、方山、原田、楠、大杉、井戸、渡辺明、大木、井上、川原、
 三橋、大槻
 (高速) 岡田、辻 (梅津) 吉田 (九条) 田中忠、古市、角田
 (烏丸) 大倉 (横大路) 岡本義

昭和58年度京交山岳部会計決算					
収 入		金 額	支 出		金 額
一 般 会 計	1 部費	302,000円	1 備品消耗品費	60,800円	
	OB 68,000		2 助成金	22,000	
	本局 93,000		3 集会費	13,400	
	西筒茂 4,000		4 総会費	15,000	
	梅津 12,000		5 部報代	304,000	
	五条 8,000		6 通信費	28,700	
	高野 2,000		7 遺対資金積立金	30,000	
	嵯峨 6,000		8 岳連会費	9,500	
	横大路 14,000		9 事務費	610	
	錦林 6,000		10 35周年記念積立金	0	
	九条 28,000		11 ワッペン費	35,640	
	烏丸 18,000		12 雑費	22,500	
	洛西 2,000		13 次年度繰越金	△12,393	
	高速 30,000				
	市役所 11,000				
2 厚生会助成金	80,000				
3 雑 収 入	124,972				
広 告 料	55,000				
雑 収 入	69,972				
4 前年度繰越金	22,985				
合 計	529,957		合 計	529,957	
35 積 立 年 金 記 念 計	1 前年度繰越金	150,000	1 次年度繰越金	150,000	
	2 一般会計繰入金	0			
	合 計	150,000	合 計	150,000	
遺 積 立 金 策 資 金 計	1 前年度繰越金	956,214	1 次年度繰越金	1,046,864	
	2 利息	60,650			
	3 一般会計繰入金	30,000			
	合 計	1,046,864	合 計	1,046,864	

昭和59年度京交山岳部会計予算

昭和59年度京交山岳部会計予算					
収 入		金 額	支 出		金 額
一 般 会 計	1 部費 3000×140	420,000円	1 備品消耗品費	55,000円	
			2 助成金	40,000	
			3 集会費	24,000	
			4 総会費	20,000	
	2 厚生会助成金	80,000	5 部報代	300,000	
			6 通信費	35,000	
	3 雑収入 広告料 雑収入	55,000 50,000 5,000	7 運営資金積立金	42,000	
			8 岳連会費	9,500	
			9 事務費	10,000	
	4 前年度繰越金	△12,393	10 雑費	7,107	
	合 計	542,607	合 計	542,607	
35 週立 年金 記念計	1 前年度繰越金	150,000	1 次年度繰越金	150,000	
	合 計	150,000	合 計	150,000	
遺積 難立 対策 費会 金計	1 前年度繰越金	1,046,864	1 次年度繰越金	1,154,564	
	2 利息(90,000×7.3%)	65,700			
	3 一般会計繰入金	42,000			
	合 計	1,154,564	合 計	1,154,564	

昭和58年山岳活動報告

(リーダー団は除く)

順位	集会参加	例会担当	例会参加	投稿	
1位	12 岡田 茂久	⑪ 伊藤 潤治	27 三橋 勉	18 伊藤 潤治	
	12 吉田 武		18 岡田 茂久		
	12 三橋 勉		17 吉田 武		
	12 方山 宗子		17 大槻 雅弘		
	⑪ 和田 良一		⑩ 方山 宗子		⑫ 津田 実
	11 広瀬 烈		14 伊藤 潤治		
	11 大槻 雅弘		14 和田 良一		
2位	10 大倉寛治郎	該当者ナシ	11 鷺見 敏一		
	⑨ 古市 昌造		⑩ 井戸 澄夫	⑦ 台川 敦美	
	⑨ 奥村 弘信		10 津田 実	⑦ 畑 照人	
3位			10 大倉寛治郎	7 大倉寛治郎	
			⑨ 井上 一夫		
	8 津田 実	6 大倉寛治郎	9 古市 昌造	5 三橋 勉	
	8 鷺見 敏一	5 三橋 勉	8 大木 秀美	4 和田 良一	
	6 山村 敏郎	5 大槻 雅弘	8 武田喜久郎	4 大槻 貞従	
	6 武田喜久郎	5 岡田 茂久	8 広瀬 烈	3 大槻 雅弘	
	5 荒田又之助	4 武田喜久郎	7 奥村 弘信	3 川原 専治	
	4 伊藤 潤治	3 吉田 武	7 石田 弘	3 井上 一夫	
	4 坂井 久光	3 田中 忠久	7 原田加津子	2 荒田又之助	
	4 渡辺 朋子	3 鷺見 敏一	7 大槻 貞従	2 山元 誠一	
	4 原田加津子	2 津田 実	6 渡辺 朋子	2 井戸 澄夫	
	4 広瀬光太郎	2 広瀬光太郎	6 山元 誠一	2 渡辺 朋子	
	4 井戸 澄夫		6 田中 忠久	2 田中 忠久	
	4 田中 忠久			2 広瀬光太郎	

59年度山岳部役員支部委員の選出について

部長	岡田 茂久	部 報	三橋 勉
副部長	田中 忠久	装 備	井戸 澄夫
	大槻 雅弘		方山 宗子
渉外	鷺見 敏一	会 計	和田 良一
会 計	川原 傳治		山元 誠一
			大木 秀美
企画運営リーダー団	岡田茂久、田中忠久、大槻雅弘、鷺見敏一、武田喜久郎、 広瀬烈、吉田武、三橋勉、大倉寛治郎、岡本義弘、広瀬光太郎		
支 部 委 員 ()内は会計			
本局	井戸、原田(原田)	横 大 略	牧野 (牧野)
高 速	出海、篠田(石田)	錦 林	武田 (武田)
西 賀 茂	横田 (横田)	九 条	古市 (角田)
梅 津	吉田 (徳野)	烏 丸	台川 (片岡)
五 条	盛田 (盛田)	洛 西	広瀬 (広瀬)
高 野	森本 (森本)	市 役 所	荒田 (荒田)
堤 湖	北川 (北川)	○ B	津田 (河村)
岳 連 関 係			
事務局 長	大槻 雅弘	評 議 員	井上 一夫
常 任 理 事	鷺見 敏一	国 体 委 員	(副委員長) 吉田 武 鷺見 敏一 坂井 久光
理 事	大倉寛治郎	自然保護委員	近藤 薫 坂井 久光 武田喜久郎

昭和59年度 年間計画案		主テーマ		（仲間と共に 山の知識を高めよう）	
月	サブテーマ	山行内容	行事	月・日	担当
4	残雪の山	大江山（35周年記念集中登山）		4.15	岡田 鷺見
5	沢と岩	比良西面の谷		5.20	鷺見
6	飛騨の山	大鼠山 坂井久光、山下周道 両氏還婚お祝い登山		6.3	田中 三橋
7	記念登山	利尻山（35周年記念登山）	記念集会（7.10）	6.29 7.3	岡田
8	夏山	北鎌尾根（夏山合宿）	ジュニア登山 （林間学校）		井上 川原
9	沢と岩	鈴鹿の岩と沢	お月見登山 （大文字山 9.21）		岡本
10	集中登山	木曾御岳山（35周年記念集中登山）		10.6 7	広瀬 （光）
11	紅葉の山	奥美濃（若丸山、越山）	写真展（文化祭）	11.3 4	大槻
12	新雪	初滑り志賀高原	納山祭（12.23 24）	12.14 18	吉田
1	雪山	雪の北山へ	初登山（牛松山） 新年会1.6 田中		三橋
2	冬山合宿	木曾御岳山		2.9 11	吉田 大倉
3	山スキー	加越国境スキーツアー	総会		武田

例 会 報 告

例会名	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1477	(変更) 真妻山ほか	2月11日 ～12日	晴後雪	伊藤 潤治	河村 清	東海地方、雪のため予定を変更して紀州の山3山登ってきた。 別稿報告
1473	雪の北山 貴船山	2月19日	晴時々曇	津田 実	奥村、石田 松井、三橋 大槻 F3 大木、井戸 和田、岡田 荒田夫妻 以上15名	石仏峠の例会であったが豪雪の為北山の入口に変更した。 雲ヶ畑の出合橋でもかなりの積雪があり、楽しい雪山ハイキングとなった。 別稿報告
1474	(変更) 法恩寺 スキー	2月25日 ～26日	晴後雨	武田喜久郎	大槻雅、 大槻貞、 古市	予定を変更して奥越の法恩寺山に登ってきた。 別稿報告
1475	伊吹山	3月 3日 ～4日	曇後晴	広瀬光太郎	吉田 武	岳連主催の指導員検定試験で、地区指導員に吉田氏が合格されました。 別稿報告
1476	飯盛山	3月 6日	晴	伊藤 潤治		次号報告

雑 報

[入 部] 本局 佐伯康介 S 32.2.9生 TEL 939-1453 (B型)

長岡京市奥海印寺 谷田 15-18

本局 上島弘子 S 11.9.7生 TEL 0774-23-8539 (O型)

宇治市南陵町 3丁目 1-53

[退 部] 烏丸 森田 博 本局 桂 豊

[退職者] 本局 上田 隆、谷尾嘉津子 九条 横井襄二

▲ 昭和59年度 日山協の山岳保険について

例年のとおり山岳保険の申し込みを山岳部総会の席上で受付しましたところ、下記の申し込みがありました。なお、まだ入会されていない方は、10日の集会までに加入されるようお勧めします。

(本局) 鷺見敏一、大槻雅弘、三橋 勉、川原専治、井上一夫

(OB) 津田 実 (梅津) 吉田 武 (錦林) 武田喜久郎

(高速) 岡田茂久、篠田勝美 (烏丸) 大倉寛治郎、台川教美

手続締切	共済開始日 ~ 終 期	1名当りの掛金
4月20日	59年5月1日 ~ 60年4月1日	6,710円
5月20日	59年6月1日 ~ 60年4月1日	6,100円
6月20日	59年7月1日 ~ 60年4月1日	5,490円
7月20日	59年8月1日 ~ 60年4月1日	4,880円

例会予告

笈ヶ岳スキー登山

日 時 5月5日~6日
 コー ス 京都-白鳥-白川村-大窪...三方岩岳...瀧瀬山...仙人窟岳...笈ヶ岳
 担 当 者 (本局) 大槻雅弘 (TEL 2266)
 備 考 本年は残雪が豊富なので、まだまだ雪山が楽しめると思っています。マイカーでテント持参で行きます。

大日岳スキーツアーのおすすめ

三 橋 勉

3月24日午後雨の中を一路美濃街道を大日岳スキー場めざして走りました。途中の郡上八幡あたりで雨が雪に変わりましたが何とかタイヤチェーンをつけなくて宿に到着しました。翌朝はうそのようなよいお天気となり、スキー場のリフト終点から素晴らしい雪景色で、ひるがの高原や美しい白山も眺められました。頂上まで1時間20分ばかりでゆるやかな山頂に立つ事が出来ました。昼食の後のよいよ7km下りです。昨日の新雪でなかなか滑る楽しみもあるし、途中でゆっくり焼肉パーティなどしてのんびり休日を楽しんできました。

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331(代)

名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7-30
TEL 521-7541代~4

テニス用品
スキー用品
山用品

交通局の皆さん
とりあえず 京菱へ
満足のいくようにします

京菱運動具店

下・大宮松原上ル
TEL 801-1331

一年中、山用品だけの プロショップ

おかげさまで創業5周年を迎え、
店も大きく、商品も充実させて
頂きました。もちろん開店以来の
全品徹底パーゲン価格も続行中!



ログ ケビン

京都市中京区御幸町通新羅橋南入
☎(075)221-7569 番504

(寺町の一つ西の通りの御幸町通
にあり、西の角より徒歩3分)



真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の

ことなら御まかせ下さい

確信ある用具を
確信ある価格で...
好日山荘



河原町六角下ル東入
TEL 241-1731

山の本

山岳書 電話ノ本にて

無料配送

ゆかり書房

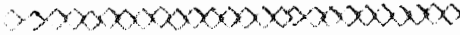
075(891)8333

昭和59年4月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局 大

京交山岳部

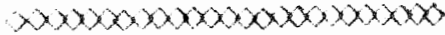


お知らせ

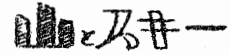
今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。改築期間中(約1年間)は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。

チロル

移転先 本店2階
京都市中京区西ノ京田町24
ダイヤ運動用品株式会社



まかせて下さい…ネ



のことなら…

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具は せと 御相談下さい
山とスキー 専門店

ビッグホリイケ

河原町店 上・河原町通丸太町東入
TEL 222-0363

御婚礼
御引越



専門

きおん菊水運送株式会社

山科配車センター
京都市山科区西野山落町12-12
TEL (075) 581-3101
本社
東山区大和大路通四条下ル 541-2345
夷川営業所
中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
厚生会指定

サンコー クラフト 西島輝雄

左・川端通丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442



山とスキーの店 京都 あるむ

京都市中京区新町三条上ル
075-255-0288



この用具の事ならユニシが一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ
そして
海の



中・二条通河原町西 TEL 231-1202